

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191000165), 法人名 (社会福祉法人 すばる), 事業所名 (グループホーム めくもり ユニットA), 所在地 (江別市大麻北町520番地の1), 自己評価作成日 (平成27年8月12日), 評価結果市町村受理日 (平成27年10月22日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000165-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年9月18日(金))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※入居者の皆様が安心して暮らせる「我が家」として、またご家族にとっても「実家」を訪ねるように来訪しやすい雰囲気づくりに努めている。
※一人一人の入居者様が自信を持って豊かに暮らす為に、持っている能力を最大限に発揮できるように個々にあった対応を検討し提供している。
※一人一人の入居者様が「笑顔」で過ごせるように、個別に計画を作成し実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームめくもりは、江別市大麻地区で特養をはじめ、多様な福祉サービスを展開する母体法人の敷地内に位置する。利用者にとっては「我が家」、家族にとっては「実家」と呼べるような家庭に近い生活環境を提供したいとの思いにより運営されている。職員は、利用者が安心して暮らせるよう、法人の基本理念を実現するために定期的な研修に参加し、技術の向上を行っている。また、利用者の声や家族の意向を大切にしており、運営推進会議でも利用者の様子を写真や利用者からの評価を交えて伝え、参加者からのアドバイスを運営に活用している。隣接する母体法人、関係医療機関や看護師の支援を受けたきめ細やかな健康管理は、家族だけではなく、適切なケアを行っているという職員の安心にもつながっている。法人では3つのグループホームを運営しており、職員の安心して働ける環境が利用者支援にもつながるため、職員のモチベーションを向上させる取り組みと安心して働ける環境の整備にも配慮している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は日々の申し送りで理念を共有すると共に、実践の評価を利用者様の笑顔で確認することでケアプランを作成し実践、カンファレンスを実施している。	法人理念の実現に向けた研修を定期的 に実施している。理念を基にした事業所の 事業方針があり、職員間で日常的に共有 している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた地域で安心して暮らして頂く為に、地域の理美容室や近隣のお店を利用するとともに、運営推進委員の方やボランティアの方に地域の情報を頂き外出したり話題として提供している。	母体法人を中心に、地域住民との相互の 協力関係が築かれている。ボランティアの 受け入れや町内会行事への参加等、積 極的に地域交流に努め、事業所について 周知している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせ、施設見学時に認知症や福祉の制度の説明に努めている。また、市内のグループホームの事業所と共同で市民向けの認知症講座を毎年開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、地域包括支援センター職員、家族、入居者様、グループホーム職員の参加のもと開催され、実施状況を記録している。運営や行事内容、事故状況や入居状況の報告を行い、意見交換された内容は、改善等に反映されている。	入居者や家族、地域包括支援センター等 が参加し、定期的に開催している。会議で 提案された内容は家族・職員にも伝え、改 善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事項は、市の担当者と相談し、助言等を受けながら、適宜対応している。また、運営推進会議の報告等で、事業所の実情やケアの取り組みを報告し、助言を受けている。	利用者が安心して生活できるよう、行政と 打合せし、活用できる制度を利用者に伝 えている。市やグループホーム協議会が すすめる地域高齢者支援の活動にも、積 極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、オートロックを使用。非常時は自動開錠する。入居者様が出入りしたい際は、職員が家族が同伴し、安全で自由なケアに取り組んでいる。	職員は法人内・外の研修へ参加すること で、定期的に振り返りの機会を持っている。 身体拘束と、ケアを高めるための視点 も取り入れた虐待防止のマニュアルがあ り、定期的に確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する研修会に参加し、内容を他職員に伝達すると共に、ケアの状況に応じて、随時カンファレンスを実施しながら、利用者様の尊厳を尊重したケアの実施に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者様で成年後見制度を利用されている方が2名いるのでその方たちの事例を通し、権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の訪問時や居室見学時に、契約書の内容について説明等を行っている。即日締結はせずに内容をよく確認し、理解や納得してから記名・捺印し入居時に持参して頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族参加の行事の他、日常的に家族との意見交換が出来るように配慮している。苦情窓口機能の明示もしており、家族の意見が運営に反映されるようおこなっている。	家族にはできるだけ面会に来てもらうよう促し、来訪時に利用者の生活の様子を伝えている。3ヶ月毎に事業所便りを発行し、写真で行事の様子を周知している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や、職員面接、月一回の全体会議時に意見交換を行い、都度検討し、改善等を行っている。	フロアごとのミーティングや全体会議の際に職員からの意見を聴取している。管理者が定期的に個人面談も行っており、職員個別の相談や目標について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時、または希望時、職員と面談を行っている。そこで出された疑問や要望等は、内部で検討するほか、必要に応じて法人総務に伝え、改善を求めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、法人内の各種委員会の研修、外部研修に職員が参加できるように努めている。また研修報告の機会を設け、内容の伝達に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内の同業者が集まる会が1ヶ月に一回開かれており、可能な限り参加し、情報の共有化をはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前訪問等で、本人・家族や関係機関から情報を聞き、職員間では対応を検討してから（入所判定）受入れを実施している。そこから得た情報等を糸口に、信頼関係を深めていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問等で得られた情報をもとに対応し、入所直後は特に細やかに生活状況等を家族に伝え、家族の入所時・入所後の思いも組み入れて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報と現状を比べ精査しながら、ホームの環境の中で、家族の希望を摺合せながら、何が必要か相談し共に考え支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴し支援する中で、表面化しにくい思いを汲みとり共感しあえるように心がけている。また出来る限り家事に参加できるようにお誘いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、居心地良く過ごせるような雰囲気づくりに努めている。また、個別にご家族と相談し、ご家族の支援がふさわしい場面では、役割分担を依頼し、共に支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は、個々の思いや意向を、本人・家族を通して把握し、大切にしてきたものが途切れないように、可能な限り柔軟に対応している。	定期的な家族、知人等の訪問がある。本人や家族より馴染みの人・場所を聞き、昔ながらの関係が維持出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や居室で共に楽しく過ごせるように、また思い込みや妄想による衝突を避けるため、職員は都度状況を把握し必要に応じ介入する等配慮している。居室での時間が長い利用者様には交流の場を設定し関わりを持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や医療機関から問い合わせがあった際は、経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の思いを真摯に受け止め、何が一番ベストな状態なのかを本人・家族を通して把握できるように努めている。困難な場合は、出来るだけ希望に近い形になるように相談・検討している。	日々の関わりの中や、家族からの情報を基に、利用者の生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問、生活歴のアンケートを通して情報を収集し、それを糸口としてさらに理解を深めていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、本人の出来ること・したい事を職員それぞれの目線から把握し、カンファレンス等で共通の情報となるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見要望を取り入れ、3か月ごとにカンファレンスで状態の変化の見直し、必要なケアの洗い出しを行い、結果を反映させ介護計画を作成している。	計画のモニタリング、目標の達成状況などについてカンファレンス等の場で検討している。都度、見直しを行い、本人、家族の意向を取り入れながら、健康や身体状況に合わせて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌(日勤・夜勤)、個別記録、連絡ノート等を活用し情報の共有に努め、申し送り時等に、適宜ミニカンファレンスを実施してケア内容の再確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて、法人と連絡・相談しながら、そのニーズに柔軟に対応できるよう対処している。また、種々のボランティア等の協力も得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の図書館・ミニ動物園・喫茶店(スペース)等、個別にもしくは行事として出掛け地域での暮らしを楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理は、協力医療機関の医師や看護師、当事業所看護師により適切に行われている。入居者希望のかかりつけ医に対しては、受診を家族に協力して頂き、看護師が情報共有を行う等支援している。	協力医療機関の医師や事業所の看護師が、臨機応変に医療の支援を行っている。家族対応で専門病院を受診する際にも、看護師が情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常を発見した時には、都度、当事業所の看護師に報告し確認、状況に応じて医師や家族に連絡し、適切な受診等が受けられるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要に応じて協力医療機関の医師や当事業所の看護師が情報提供を行う。同様に介護添書も届けている。入院中は、職員が出来る限り面会に出かけたり、相談員間で細やかに情報交換をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する対応指針を提示、ご家族と相談し同意頂いている。また、職員も看取りに関する研修を受講し個々の状況に合わせて終末期を迎えられるように体制づくりを進めている。	重度化した場合の対応に係る指針を文書化し、早期から家族や、かかりつけ医と連携し、話し合いを行っている。本人や家族の希望を尊重し、最善を尽くせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的要素が強い場合は、看護師指導のもと、職員一人一人が対応できるように学ぶ時間を設定し対応。また、法人で行われる予定の救急時の対応についての研修も全員参加できるように調整していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防協力のもと隣接する有料老人ホーム花音と共同して、日中・夜間帯を想定し避難訓練を行い、他緊急時の連絡体制の確認もなされている。また運営推進会議において避難訓練への参加を呼び掛けている。	避難訓練は昼夜想定で年2回、併設の施設と合同で行っている。毎回具体的な設定を行い、課題となることを洗い出し、改善に繋げている。	災害時、考えられる事業所の状況を近隣住民、町内会に伝え、協力関係の構築に努めている。今後もさらなる尽力に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や言動は個々の状況に応じながらも、尊厳を損なわないように配慮している。個人情報保護法に沿った対応を図り、情報管理には細心の注意を払っている。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が混乱しないように配慮しながら、選択できる機会を多く持てるように努めている。また生活歴をよく知ることで、言葉にならない思いも汲みとる事が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言動や状況の中から個々の意向を汲みとり、体調等に配慮しながら、個別性・柔軟性のある対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と相談し納得して頂きながら、外出時の化粧・身繕い等、季節や場に応じた身だしなみ・おしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じて、食事の準備や片付けを職員と共に行っている。また、毎食前に口腔体操を実施し、美味しく食事が出来るように支援している。	食材は主に近隣のスーパー・商店から仕入れ、法人の管理栄養士が作成した献立をもとに嗜好等の要望も取り入れ、食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を食事・水分共にチェック表に記載し毎日確認している。個々の状況に合わせて食事の形態・食器の選択・とろみ剤の使用等を行い、出来る限り本人の力で安全に摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施、あるいは声掛けし、必要に応じて自尊心が傷つかないように配慮しながら、仕上げ磨きをするように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、個々の状態の変化に合わせて、申し送り時・フロアミーティング時に排泄パターン・排泄用品の確認・検討を行い、残存機能を生かしたケアにつなげられるように努めている。	利用者のサインを見極め、タイミングよくトイレへの誘導を行っている。利用者の重度化も考慮し、無理のない排せつ介助を目指し、パッドやリハビリパンツ等、快適性を検討しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師が中心となり、個々に応じた飲食物の工夫、運動・服薬等による排便調整に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決めず、個々の健康状態・外出・面会状況に合わせて、週2回以上の入浴を実施している。また、シャンプー・石鹸等も個々に合わせて対応している。	週2回以上を目標に、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体・活動状況、生活習慣を把握して、適度に休息できるように対応し安心して良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロア毎に「薬表」ファイルを作成し、指示薬が変更次第入れ替えを実施、看護師と介護職員が連携し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(掃除・下ごしらえ等)・趣味活動(手芸・読書等)、担当者を中心に、個々の状況に合わせ環境を整え実施できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけては、職員と共に散歩や買い物・外食に出掛け、また四季を通して隣接している法人の喫茶コーナーの利用・外出行事の設定等、個々の状況に合わせ支援している。	利用者の重度化により、歩行が困難になったり車いす利用者が増えてきているが、家族の協力も得ながら、外出の機会を多く持てるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物行事・外出の他、それぞれの能力に合わせ個々に対応して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望や了承を経て、個々の状態に合わせて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは、市営球場や畑が見え春から秋にかけては子供達の姿や作物の様子、冬には雪原と四季折々の景色を見渡せる。共有空間は広く、利用者の安全を考慮した作りとなっており、家具の配置・温湿度換気等が適切に保たれるように配慮している。	共用スペースはゆったりと設計されており、エアコンや加湿器などで空調を行い、快適に保たれている。利用者の作品が飾られた居間は、季節感を大切に装飾が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・セカンドリビングにそれぞれテレビ・ソファを設置し、個々の時間、気の合った同士の時間を過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具を持ち込んで頂き、家族写真や仏壇等が、個々の好みや必要に応じて設置されている。また、一人で趣味の時間を楽しめるように環境を整え対応し支援している。	居室にはクローゼットが備え付けになっており、利用者の持ち物がすっきりと収納されている。個別の趣味活動等ができるよう、プライベート空間を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレに札を用意し解りやすいように工夫している。また、家具等で行動時の動線を確保し、出来るだけ安全で自立した生活ができるよう工夫している。		